

封筒・名刺のプロの営業
お客様のご要望にパーフェクト
ビジネスシーンでの第一印象をビシッと



SOPTECが
過去最大規模に

東北地区印刷協議会が主催する「SOPTEC」として2015」が、7月3日・4日に仙台市の仙台卸商センター産業見本市会館「サンフェスタ」で開催される。

展示会には73社（119小間）が出展し、社数、小間数ともに過去最多となった。主催者および出展者企画のソリューションセミナーも2日間20講座行われる。今回のSOPTECの基本コンセプトは「時代の変化に対応する企業と人材育成」。3日の開会式後には、全印工連副会長の白田真人氏が、アドビ社長として「我が社の武器は『企画提案力』をテーマに講演する。

受取DMの内容は、「新」引き出すためには、具体的に。一線を越えていた。たまたま、良で飲料分野など一部の「プロイド判、4頁、フルカラー1500」を使用

CGキャラクター開発で注目

BOND 動画を簡単作製・配信

古川社長「印刷業だからこそ可能に」

BOND（古川ひる美社長、北九州市小倉北区）は、キャラクター動画をだれでも簡単に作製・配信できるツール「SmartAvatar（スマートアバター）」を開発し、その汎用性と高い演出効果が企業や自治体から広く注目されている。東京都印刷工業組合が5月20日に開催したセミナーでは古川社長が講演し、「スマートアバターは、印刷会社の企画提案力、デザイン力が活きる。IoTと印刷のコラボレーションで2020年の先を見据えた展開がでる」と話した。



古川社長

講演は、東印工組が東京青年印刷人協議会と共催したセミナー「攻める経営！印刷会社こそIoTソリューション」の初めに、業態変革への挑戦事例として行われた。古川社長の実家は、1950年に設立された古川写真印刷工業社。子供時代の頃からインキの匂いの中であつた古川氏は、やがてデザイナーとして働くようになった。転機は2006年、社

長であつた父が認知症となり、経営不振の状態にありながら会社を継承することを決めた。同時に社名をBOND（絆）の意に改題し、経営革新が始まった。

印刷用データが、ホームページや電子ブック、デジタルサインなどさまざまな媒体に活用されている時代となつたことを注ぎ込んで開発したのが、動画による新発想のコミニケーションツール「スマートアバター」だ。言話から感情を類型

できるデータベースであり、ICT技術と人間の感情を結び付ける点に主人の言葉（心）を理解できるCGキャラクターによる自動演出が可能で、キャラクターたちは「幸せ」と入力すれば微笑みながら話し、「あなただんなか嫌い」と入力すれば嫌悪な態度や表情をとる。ただし、感情の度合いを設定可能で、「明るい性格」「泣き虫」「恐がり」など、性格を自由に調整できる。同じセリフでもキャラクターによって表情やしぐさは多彩。演出の組合せパターンは無限と謳っている。

CGキャラクターを使うってナビゲーションを行

う場合、作製を専門家に依頼すると、15秒程度でも数十万円と高額で、利用が限定されるうえに、修正や変更は容易にできない。打合せなどにも多くの時間がかかる。ところがスマートアバターであれば、日常的な簡易動画で、だれでも簡単に、早く、何度でも作製できる。専門知識が不要で、修正や変更も容易

これらの特長から、番組生成、音声通話システム、ネットTV配信として機能でき、教育ツール、展示会でのプレゼンター、外国人観光客や高齢者への案内など、さまざまな分野で利用が考えられる。堅い公共情報でもキャラクター動画であればスムーズに理解できる特徴もある。すでに、アサヒビール



BONDが開発したキャラクターたち（同社サイト）

145万円、年保守43万円、ビジネス発生時のみロイヤリティなど料金が明確（※販売パートナーは日本テクノ開発）など、多くのメリットがある。リアルタイム配信、多言語対応、モバイルデバイスへの配信も可能で、アニメ大園日本のアピールにもなることから、BONDでは2020年東京オリンピック・パリオリンピックに向けた提案も積極的に行っている。古川社長は「スマートアバターは、テキスト入力や背景のパワーポイントデータ程度で作れるので、印刷会社が自ら番組を運用することができ、複数七二々に同時配信でき、ネットワーク連携もとりやすい。広告業界にとっては脅威だと聞くと、「印刷業界には、企画提案力とコンテンツがすでにある。動画演出で効果的に伝える幅を広げるチャンスだ。印刷業界が動画コミュニケーションの火付け役になれる」と今後の可能性を示した。